

令和5年度 第6回 牛津高等学校 学校魅力強化委員会（学校運営協議会）議事録

「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第5回学校魅力強化委員会（学校運営協議会）の会議録を公表します。

開催日 令和6年3月1日（金） 於 会議室
開催時間 13：00～15：00
出席者数 委員8名 事務局2名 県より1名
出席者氏名 委員：長戸、高元、横尾、戸村、大坪、ドジソン、滝、江頭
事務局：福島、北村
県アドバイザー：門脇

1 開会

≪校長挨拶≫

今年度の協力のお礼と当日開催された卒業式での様子を伝える

2 協議

①北海道三笠学校視察報告

≪視察訪問説明≫※別紙資料を使って主幹より説明

≪意見交換≫

（会 長）かなり面白い取り組みだと思います。しかし、現実にはできるかなとなると難しいですね。この地域だからできるのだらうと思います。ここに行かれた日は土曜日ですか？

（主 幹）学校とレストランは別なので、金曜日に学校を訪問して、学校について説明をきき仕込みなどを行っているところを見せていただきました。そして、土曜日に開店するまでと、開店してから実際に見せてもらいました。2月のオープンはこの日だけでした。

（会 長）雪でうまってしまうから開けてもしょうがないかもしれませんね。

（主 幹）はい。この日もお客さんは少なかったです。とにかく夏にできるだけ集客しておかなければならないといわれていました。ただ、学校の状況としては、3年生がいなくなって1・2年生だけでスタートする時期なので、少しずつ慣れていくにはよいのかもしれませんが。学校は、同じ生徒がどんどん上達していくのではなく、3年間で生徒が変わりスタートに戻るので、サイクルをうまく作ることは大切なようでした。

（委員1）調理科コース1学年、調理20名・製菓20名の40名ということでしたので、全学年で120名ということになりますが、先ほど言われた調理部・製菓部・地域連携部の部活動に全員所属されているのですか。

（主 幹）いいえ。希望者です。ただ、調理の人が調理に入らなければならないというわけではなく、製菓に入ってもよいし、製菓の人が調理に入ってもよいそうです。つまり、学校の授業とは別に動いているということになります。これも、一つ魅力だなと思いました。

（委員1）その他の部活があるわけではないということですか。

- (主 幹) はい。そのほうが、人数も少ないので力を注ぎやすいのではないかと感じました。部活それぞれに一応4名ほどの顧問がついているようでした。学校としての効率は良いのかなと思いました。ただ、実質的には、その調理専門・製菓専門のそれぞれ1名の方が負っているところはありますが。
- (委員2) ランチメニューの青春御前とテイクアウトメニューがあったと説明されましたが、値段とかはわかりますか。
- (主 幹) ランチメニューは1600円でした。
- (委員2) 利益とかは出ているのですか。
- (主 幹) はい。出ているということでしたが、設定の仕方についての%については、私が良く分からないのですが、普通に商売されている方と比べるとかなり低くぎりぎり設定しているということでした。施設を使う光熱費と次の材料と練習用の材料が出せるぐらいということでした。
- (委員1) 決算などはされていきましたか。利益がいくらだとか、コストがいくらだとかというようなこともされているのでしょうか。会計の勉強もされているのでしょうか。
- (主 幹) 部活なので部内でされているということでしたが、最終的には職員となりますかね。事務に市のレストラン担当のような人がいらっしゃると聞きましたが、お話を聞くことができなかったので詳しいことは聞けませんでした。
- (会 長) 我々の想像をはるかに超えたもので、なかなか感想も出てきませんね。ここまでの施設とは。これは完全に市の施設ということですか。
- (主 幹) はい、市の研修施設を学校が使わせてもらっているという形になっているということでした。ただ、このためだけに作られているので、そのレストランとカフェは、土日に生徒たちが使い、平日は基本的には使っていないということでした。
- (会 長) 平日は使われていないのですか。調理実習などで使うわけでもないということですか。
- (主 幹) はい。授業は学校で行わなければならないので、校内で行うことができれば、授業の一環でできるので、来年度、本校の集団給食の授業で外部の人に食べていただく機会を設けようと考えています。外に出なければ授業としてやっていけるということらしいので。外に出ると部活動としてでないと授業ではなく、外部の方と協力してできないものかなと。商品開発についても企業などからいろいろなお誘いがあるらしいのですが、人数少ないので、そんなにたくさんものを引き受けることができないとも言われていました。
- (委員1) ここは、2012年に立ち上げられているので、卒業生もいるのではないかと思います。そのような人が常駐するということはないのでしょうか。
- (主 幹) 今のところ、ないようですが、隣のキッチンスタジオの管理者(地域おこし隊)は卒業生の方だと伺いました。
- (委員1) 平日の日中しないというのはもったいないですね。
- (主 幹) はい。もし、市が建てていただけたら、そこで調理教室も行える施設と併用するのだったらできるのかな。とか勝手に考えていました。
- (委員1) 民間と連携するのがよいような感じがしますね。平日の日中は民間が使っていて、土日だけ生徒さんが使うという形にするとか。
- (会 長) この学校は、もともと市が高校を復活させているのでここまで市が関わっているということになるので、かなり特殊ですね。たしかに、民間とコラボしたら、民間の施設が使えますかね...

ほとんどが寮に住んでいるというところもまた、事情が違ってきますね。

(委員1) ちなみに、この寮に住んでいる生徒たちは、昼間は何を食べているのでしょうか。

(主 幹) すみません。聞いてきていません。女子寮は学校の裏にあるそうですが、男子寮は少し離れたところにあるそうです。

(委員1) 生徒のお昼にもこのレストランが使えたらいいのにと思いました。学食として使えたらいいですね。

(主 幹) 確かに、いい案ですね。

(会 長) このような報告は生徒さんたちにもされたりしますか。

(主 幹) したいとは思っています。

(会 長) そのほうが、いろいろ自由な発想が生まれてくるかもしれません。

(委員2) 牛津高校、修学旅行は北海道にいらっしゃらなかったか。1日だけでも調理科だけ学校訪問させて交流させるのもいいですね。修学旅行の一行程に入れて。

(主 幹) はい。夏に数名訪問して一緒にレストランで体験することをされている学校があると聞いて、私もどこかで交流できないかなと思いました。

(委員2) 北海道に修学旅行に行くのであればぜひ！

(会 長) 今ではなくても、何かあればご意見伝えていただきたいし、生徒さんにも聞いてもらえたらと思います。我々があまり限定する前に生徒さんにもぜひ意見を聞いて自由に言ってもらってから考えていってもよいかもしれません。

(主 幹) はい、起業家入門などで紹介もよいかなと思っています。

(会 長) そうですね。一種の起業ですので、ぜひ。では、ここで一旦終了して次の議題に移ります。

②学校評価結果

《学校評価結果について説明》※別紙資料を使って主幹より説明

《意見交換》

(委員4) 県外からの合格者が来年度2名いらっしゃるということでこの2名の方は通学されるのですか。

(主 幹) 通学可能な範囲からこられる県外の生徒です。

(委員4) 先日、有田のほうでシェアハウスができたという話をきいたもので。牛津でも、なにかそのような話があったりするのかなと思ひました。

(主 幹) まだ、来年度かけて話し合っていこうと思っています。

(委員4) 県外からの生徒を募集といわれても、なかなか、住む場所がなければ難しいと話していたので、有田ができたと聞いて、牛津もどうなのかなと期待したのですが。有田がどのようにできたのか、どのようなものかご存じなかつたらいいと思いますか。

(アドバイザー) 私が立ち上げて行っております。有田工業高校は、「地域みらい留学」という全国から生徒を募集する仕組みを令和3年度から利用していて、その時の条件として、県と町と連携しながらお金も出し合いながらやっつけようというので、県にも町にも位置付けられています。その中で、昨年度6人入学してくれたので住む場所が足りなくなったことを学校からも声を上げていただきつつ、町としてもここにお金をかけようということになりました。対話を重ねていく中で、地域の空き家を紹介していただき、空き家を改修してシェアハウスを作ることになりました。もともと背景として、地域と県と学校が連携して県外からの生徒を募集して住まい

を整えようというプロジェクトとなっています。

(委員4) ぜひ、小城市もご協力お願いします。

(委員1) その場合、生徒の食費は町が負担するのですか。

(アドバイザー) 生活支援金として、町から3万円の補助が出るようになっていきます。財源は町と県が割合を決めて負担しています。アパートに住む子もいます。今回のシェアハウスは、平日おかが2種類ぐらいついて、通信費・光熱費含めて月額8万5千円です。男子棟で4名、女子棟で4名収容できます。

(委員1) 8万5千円が自己負担ということですね。

(アドバイザー) はい。そして補助が3万円来るので実質5万5千円ということになります。極力下げたいとは思っているのですが、なかなか難しく、いろいろなもののバランスをとってこの金額に落ち着いたということです。地域の補助としては、改修費のほうで出させていただいています。

(委員5) 資料P20の生徒の肯定的回答が20%増加した項目が挙げられていますが、もともと低かったから20%増えたんだらうと予測するのですが、この増えた要因は何だと思えますか。例えば、「将来を考える授業があったから」あがったとか。

(主 幹) 昨年度のデータとの比較は、いろいろ条件が違っていたりして比べるのが難しかったので、とりあえず今年度の7月から2月の間の推移を根拠としました。一番影響力があったと考えられるのは2年生のインターンシップです。あとは、ボランティアに行く生徒の数も今年度増えており、特に1年生では増えました。コロナの影響があり、しばらくは出ることができなかった現状もあるかと思えます。今年、制限がなくなったこともあり活動が復活していることも関係しているとも思えます。ただ、どれがどれと断言するのはなかなか難しいです。あと、地域連携講座の終わった次の日に、アンケートを実施しているので1年生ではこの影響も大きいと思われま。

(委員1) 特に、1年生の7月なんかは何もなかったでしょうから。

(委員5) ありがとうございます。参考になりました。

(主 幹) 学校評価については、学校関係者評価書を学校評価部会の委員さんの方でまとめていただこうと思っています。後日、まとめていただいたものを皆さんにメールで送付させていただき、ご承認をいただくという形にさせていただきますので、よろしく願いいたします。

(会 長) 以上で私の司会は終了して、次の方に引き継ぎたいと思います。

③佐賀県学校魅力化アドバイザー門脇享平氏による「令和5年学校魅力強化委員会の振り返り」

《研修の目的について》

○委員の皆さんと事務局で、今年度の学校魅力強化委員会の振り返りをできている。

○委員の皆さんと、高校生お店プロジェクトを前提とした関係者の洗い出しができる。

～今日のキーワードは「10年先への一歩」～

《コミュニティ・スクールについての説明》

○学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる仕組み

○学校運営の基本方針を承認・学校運営に関する意見や教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べるなど機能を持っている。

⇒委員の皆さんが共通のビジョン実現に向けて主体的に熟議や協働すること、それが実現できるように学校側が情報を共有することが大切！

《今年度の学校魅力強化委員会の振り返りについてグループワーク》

★Keep (来年度も継続したほうがいいところ)

- ・ SNS での発信を強化してほしい⇒インスタでとても上手に PR されているので、フォロワー数増ともう少しハメを外したものがあってもいいかも
- ・ 意見が言いやすいところ
- ・ 生徒の校外での活動拡大
- ・ 情報発信のための工夫
- ・ 地域と学校の課題の共通項と方策のための議論
- ・ 課題発表会の視聴
- ・ 制服の発表、制服検討が生徒主導
- ・ ファッションショー開催、産業まつりとのかかわり
- ・ 学校の教育活動について知る、理解する
- ・ ワークショップ的なもの、グループ協議
- ・ 特定の議題に対して自由に意見をのべる方法で進化したところ

★Problem (来年度は改善した方がいいところ)

- ・ 先生の移動や PTA の変更でせっかくここまでやってきて交替となるのがもったいない。できればこのままメンバー変更なく進めてほしい
- ・ 従来の評議員会の役割も課されているので (学校評価や教科書選定など) 自由にならない部分が多くなりどう運営するのか難しかった。
- ・ 取組の整理と実現性の検証
- ・ 具体的方策の改善と継続性の維持
- ・ 地域住民とのつながり (自治会、まち協、公民館)
- ・ 地域の定義 地域と学校、生徒と地域⇒2つの領域
- ・ 意見を述べるではなく自分が経営する立場で考えられるような仕組み (しかも楽しく)
- ・ 学校魅力強化委員会について、コーディネーター (門脇さん) の今回のような説明が第 1 回に行われてほしかった。
- ・ 議論をしても意見が十分にまとめられておらず、意見を述べるだけで終わっていた感があり、まとめと運営への反映の観点が欠けていた。

★Try (来年度やってみてほしいこと/やってみたいこと)

- ・ クッキーづくり (フードロスで)
- ・ 古着リメイク販売など
- ・ 卒業生との意見交換
- ・ 生徒との直接意見交換
- ・ 大学生との交流
- ・ 生徒が作った料理の試食

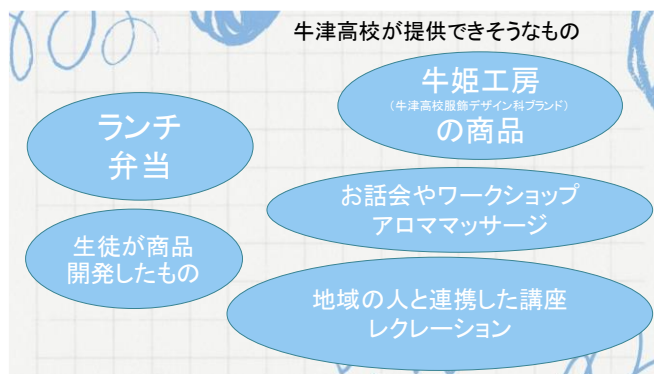
- ・専門性を生かした教育（唯一無二）
- ・お店実現プロジェクトの本格始動、プレのプレでも OK
- ・学校の外での委員会、視察 OK
- ・授業を受けてみる
- ・生徒を入れる
- ・今年度、やってほしいこと、やったらどうかという話が出たものを実際に実現していない（Instagramを生徒がアップする等）ので来年は実現に向けて
- ・県外からの生徒募集
- ・空き教室の活用（集団給食の外部受け入れも合わせて）
- ・生徒に参加させられるか。

《牛津高校が来年度取り組みたいことは？》

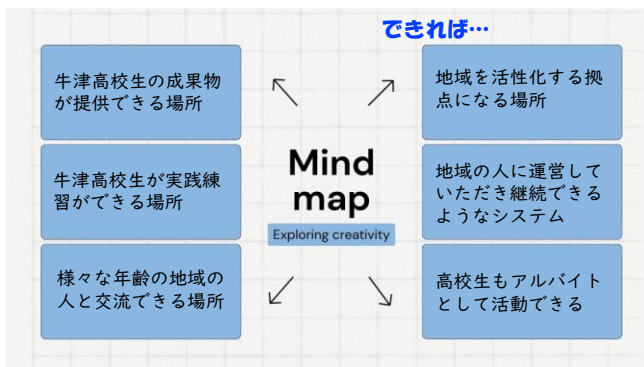
主幹より「高校生お店プロジェクト」について説明



○プロジェクトの原点として令和29年度から始まった「夢つむぎプロジェクト」の活動を発表したものが令和3年度に文部科学大臣賞をもらいました。その発表の中の最後に「夢つむぎヴィレッジ」の建設にむけて地域の人と動きますとありました。もともと、牛津にはこのようなヴィジョンがありました。

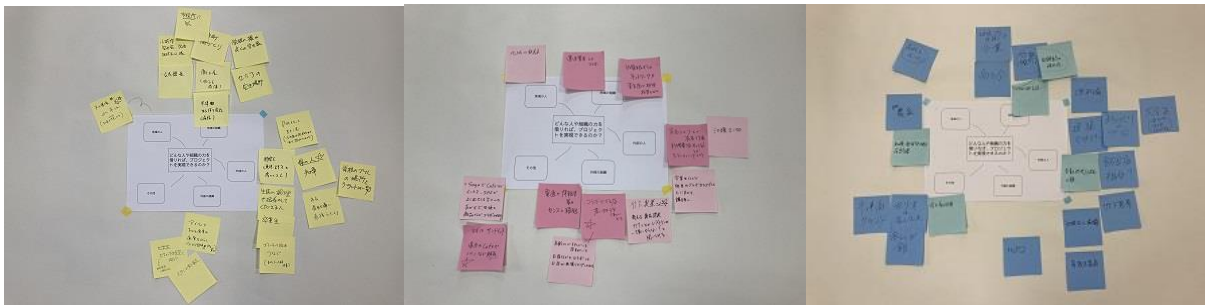


○牛津高校には、このようなものが提供できると考えます。



○この6つの条件を満たした、学校にも地域にも教員にも WinWin で持続可能なシステムを持つ高校生のお店の設立を目標にする。

≪「牛津高校の魅力ある取り組みを実現するためには？」についてグループ討議≫



グループで「力を借りたい人や組織」3つ選んで理由と合わせて発表

- グループ1：①コラボできる店（若いアイデアが欲しいところ、例えば、
店主はいるが後継ぎがいないところとか）
②サンドイッチとかおにぎりとか定期的に県庁の下で販売
③竹下製菓と何かする

- グループ2：①人⇒街づくりに思いを持っている人たちを募る物
②場所⇒今牛津高校がやっていることが点なのでこれをまとめる拠点が必要
できるなら、牛津高校に近い場所（セリア、赤レンガ館等候補）
③金⇒金というより行政とのつながり

- グループ3：①地元の行政である市役所
②県立高校なので県の協力
③牛津の地元企業の会長であり商工会や街づくりの会長

≪学校より≫

本日できてきた内容を来年度に生かしながら運営していきたいと思います。1年間ありがとうございました。

5 閉会